

■ 記念誌原稿

① テーマ : 「時空(とき)の旅人」Peak2Peakの人生を!

笹木 美樹男(1977年度入学)

② 本文 : 800字程度~

私は2014年10月末に突然、大動脈解離という大病で入院し、死んでもおかしくない状態であった。それまでは、プライベートでは岐阜清流マラソンや国内外のスキー、スキューバダイビング、旅行など若者同様の生活であった。オフィシャルでもIT方面の研究開発など国内外で精力的に行っており、「俺はそのまま大丈夫だ」とずっと思っていた。その年の4月にはカナダWhistler-Blackcombで最高のスキーを楽しみ、Peak2Peakのジャケットも手に入れた(これはのちにマラソン大会の必須アイテムとなる)。当時56歳とは言え、心身ともに絶好調であった。それが、研究所内で食堂に向かう途中で気を失い、気が付いたらぼおっと天井が見える。見知らぬ病院に寝たきりで、家族に会うことも家に帰ることもままならない。その時点で既に手術後であった。思えば、夢の中で何度か「おまえはまだこちらへ来てはいけない」「あなたはまだ死んじゃいけないの!」という声(?)を聴いた記憶がある。三途の川の一步手前であったのだろう。目が覚めたら重力5倍の世界である。まったく思うように動けない。以後2か月あまりリハビリ入院の生活が続く。退院後もその影響は大きく、旅行・スキー・ダイビングなどは再開できたが、持久力に関しては、2年前までは500mも走れない状態だった。だが、同期の小林滋弥さんに海外フルマラソン3時間台の話をFacebookを通じて伺い、60歳近くでもここまでやれるんだと大変感銘を受けた。そして、1年前から毎朝、2km、5kmと朝のジョギングを重ね、2018年にはマラソン大会で10kmを5回、20kmを2回完走し、富士山フルマラソン(時間制限でハーフまで)にもチャレンジした。そして2019年2月10日には愛・地球博記念公園でのフルマラソンで生まれて初めて完走証をいただいた。今年はさらに4月の岐阜清流マラソンや秋の富士山マラソンで完走証を追加するつもりだ。

今日は3月10日、AMは名古屋ウィメンズマラソンが行われ、5人の女子選手が新たにMGC追加となった。午後には琵琶湖マラソンで男子がMGCをかけて争った。フルマラソンというのは40kmよりもきつい。最後の2.195kmがデッドヒートである。そして40kmは単なる10kmの4倍ではなく、20kmの単なる2倍でもない。20kmを超えたあたりから別次元の自分との闘いになる。それをスマートに超えていく昨今の女子たちには感服せざるをえない。私のマラソンはずばり、自己満足である。おそらく一般の参加者は大半が自己満足であろう。しかし健康面は勿論のこと、自己管理・制御、感性や新しい発想など精神面・人生哲学においても、その効果は計り知れない。計算機科学のノーベル賞ともいわれるACM Turing賞で有名な、イギリスの数学者Alan Turing(1912.6.23-1954.6.7)はマラソンをしながら

ら、あの偉大なる Turing Machine (今のコンピュータの原理となる状態機械の概念) を発想したといわれる。私も生きていることの素晴らしさと景色との一体感を感じながら空海のように突き進み、竜馬のように新しいことをやって、死ぬまで前のめりでいたいと思う。



③

写真データ：京都大学工学部電子工学科_1977年度入学_笹木美樹男(2018年10月、札幌・真駒内にて), jpg

■ひとことコーナー

① テーマ : 持久走同好会と私

② 本文 :

小林滋弥さん FaceBook でお世話になってます。私がフルマラソン完走にこぎつけたのは貴殿の太陽のような明るさとパワーのおかげです。私は貴殿の3時間13分には一生辿り着けない。リタイアしない精神力とする勇気を自己制御して5時間台につなげたい。そして何よりも、マラソンに学ぶ教訓と、時空・景観との一体感！持久走同好会に入って本当に良かった。

③ その他 : 写真のデータ→上記参照

